

# 朝倉医師会病院における中等度催吐リスク化学療法

## レジメンの制吐薬効果の評価

薬剤科 ○木村光太郎、小川禎之、林田栄一、福江善彦、北島祐子

### 【目的】

当院のがん化学療法中等度催吐リスク (MEC) レジメンは制吐薬適正使用ガイドラインに準じ、制吐薬として5-HT<sub>3</sub>受容体拮抗薬とデキサメタゾンに登録している。これらで制吐効果不十分の場合は、アプレピタント (APR) の追加投与を行っている。また、MEC で比較的催吐リスクの高い抗がん剤投与時は制吐薬として標準投与に APR を追加した3剤併用を行っている。そこで今回 APR の標準投与化を検討するため、当院における化学療法誘発性悪心嘔吐 (CINV) の現状を調査した。

### 【方法】

2015年8月～2016年8月の間に当院入院及び外来においてがん剤化学療法を実施した頻度の高い MEC レジメン[大腸がん：(分子標的薬を含む) FOLFOX、FOLFIRI、XELOX] [肺がん：AMR] [胆道がん：CDDP+GEM] を対象とし、電子カルテを後方視的に制吐薬、CINV の有無、発現時期、嘔吐抑制：[制吐処置なし、嘔吐性事象なし、悪心の程度は問わない]、悪心抑制：[制吐処置なし、嘔吐性事象なし、悪心なし]について調査した。

### 【結果】

対象患者は FOLFOX 22 名、FOLFIRI 12 名、XELOX 10 名、AMR 8 名、CDDP+GEM 5 名の計 57 症例であった。嘔吐抑制、悪心抑制は共に CDDP+GEM は 5 人中 5 人、AMR は 8 人中 7 人であった。一方 FOLFOX では嘔吐抑制：22 人中 12 人、悪心抑制：22 人中 7 人、FOLFIRI は嘔吐抑制：12 人中 6 人、悪心抑制：12 人中 4 人、また XELOX は嘔吐抑制：10 人中 6 人、悪心抑制：10 人中 3 人であった。また CINV イベントのほとんどが day2 以降の遅発性悪心嘔吐であった。

FOLFOX、FOLFIRI、XELOX では嘔吐イベントのある患者 13 人中 5 人に対し APR が投与され、その全例にて嘔吐イベントは消失していた。悪心イベントがあった 17 人中 5 人に対し、APR が投与され症状の改善が見られた。CDDP+GEM、AMR においては 5-HT<sub>3</sub> 受容体拮抗薬とデキサメタゾン併用の標準投与で CINV をほぼ抑えることができていた。

	嘔吐なし 悪心問わない	嘔吐なし 悪心なし	2コース以降の APR投与
FOLFOX	12/22人	7/22人	5/22人
FOLFIRI	6/12人	4/12人	4/12人
XELOX	6/10人	3/10人	1/10人
AMR	7/8人	7/8人	0/8人
CDDP+GEM	5/5人	5/5人	1/5人

	嘔吐あり APR追加	悪心あり APR追加	APR投与後の 嘔吐発現
FOLFOX	2/5人	3/10人	0/5人
FOLFIRI	2/4人	2/4人	0/4人
XELOX	1/4人	0/3人	0/1人

### 【考察】

今回の結果で制吐薬の標準投与のみでは、同じ MEC に分類されるレジメンでも制吐効果に差があることがわかった。また、悪心・嘔吐に難渋する MEC レジメン患者においては APR 追加により嘔吐症状緩和に一定の効果があるのではないかと考えられた。APR は高額であり、経済的な面や便秘などの副作用も考慮する必要がある。今後、院内 MEC レジメンを細分化し、適正な制吐薬として APR の標準化を検討することで患者の QOL の向上につなげていきたい。